

ウィキペディアタウン東山： 京都女子大学図書館司書課程におけるアクティブ・ラーニング実践

桂 まに子

1. はじめに

大学の図書館司書課程は即戦力のある司書養成をなし得ているのか否かという問題関心のもと、平成27年度は担当科目（図書館総合演習）にて、即戦力を「地域情報を編集する能力」に置き換えた場合の授業設計およびアクティブ・ラーニングの手法の有効性に関する実践研究を行った¹⁾。情報リテラシーの4ステップ（収集・整理・編集・発信）を組み込んだアクティブ・ラーニングの授業設計を行った結果、事前の準備・授業の受講・事後の展開の3ステップを欠くことなく体系的に学習を進められることが分かった²⁾。学生たちが手がけた小冊子『本から始める東山 京女生×地域×観光』は、図書館の地域資料に該当する資料となったが、ウェブ上の公開はしていないので、デジタル情報としては存在していないことになる。

伝統的にアナログな情報を扱って来た図書館がデジタルな情報の扱いに苦戦しているように、図書館司書課程のカリキュラムにおいても十分に補いきれていないのが「情報技術力のある図書館員」の養成である。そこで、本研究では、本学図書館司書課程の図書館総合演習において「情報技術を駆使したアクティブ・ラーニング」の教育プログラムの開発と実践を試みた³⁾。前年度に設計したアクティブ・ラーニングの枠組みに技術的な要素を大きく加えることにより、学生1人1人の「情報を収集・整理・編集・発信する力」を

分かりやすく伸ばすことが目的である。

図書館司書課程の授業に初めて組み込んだ「ウィキペディアタウン東山」は、本学が所属する京都市東山区のユニークな地域情報を収集し、地元の図書館や寺社、店舗などと協力しながらデジタル情報を編集し、見える形で記録・公開することを可能にさせた。情報技術を駆使する具体的なやり方として、ウェブ上で誰もが編集可能なツールであるWikipediaとOpenStreetMapを用いる。本稿では、アクティブ・ラーニングの手法を組み込んだプロジェクト型授業について詳述し、技術面の特徴と教育効果について考察する。

2. ウィキペディアタウンと図書館

2. 1. ウィキペディアタウン

Wikipedia日本語版によると、ウィキペディアタウンとは「その地域にある文化財や観光名所などの情報をインターネット上の百科事典「ウィキペディア」に掲載し、さらに掲載記事へのアクセスの容易さを実現した街（町）のことである」⁴⁾と定義されている。「ウィキペディアタウン」という名称が初めて登場したのは、2012年5月にイギリスのウェールズ州にある小さな町（モンマス）の取り組みが注目されたのが最初である。もとは「モンマスペディア」というプロジェクトから始まり、ボランティアらが町の建造物や展示物などに関する記事をWikipediaで編集し、実際の建物にはQRコードのプレートを

付けてWikipediaの記事にアクセスできるようにした。町全域には無料Wi-Fiを完備した。観光客はスマートフォンやタブレット端末があれば、その場で名所の説明について知ることができるようになったという⁵⁾。

このように、ウィキペディアタウンはウィキペディアの記事を名所に結びつけたタウン(町、街)を意味する名称から始まったが、日本でウィキペディアタウンと呼ぶときは、整備した町そのものというよりも町の名所をWikipediaで編集するイベントを指すことが主流である。2013年2月に横浜で初めてのウィキペディアタウンイベントが開催されて以降、二子玉川(2013)、京都(2014)、仙台(2014)、北海道(2015)と続き、その後は全国各地に広がりを見せている。2015年は33ヶ所、2016年は35ヶ所で開催され、2017年には64ヶ所と約2倍に増えている⁶⁾。

2. 2. ウィキペディアタウンを支える図書館

ウィキペディアタウンの主催者らが活動記録を残しているWikipediaの「プロジェクト:アウトリーチ/ウィキペディアタウン/アーカイブ」⁷⁾を確認したところ、主催や共催、会場協力、文献協力として公共図書館や大学図書館が関わっているイベントが多数見受けられた。2015年は16回、2016年は19回、2017年は34回のイベントに図書館の名前が登場する。毎年開催回数の約半分に図書館が関与するほど、ウィキペディアタウンには図書館の協力が欠かせないのだろうか。

Wikipediaで地域に関する記事を編集するイベントであることから、イベント参加者が編集作業の際に必要なのは当該地域の情報を正確に得られる文献である。文献には、一般図書はもちろん、辞書・事典のようなレ

ファレンスブック、雑誌の論文や新聞記事などが含まれる。文献以外にもデータベースやウェブサイトが有効なときもある。これらの情報源を個人ですべて揃えるには限界がある。とりわけ、地域に特化した情報となると入手できない場合も生じる。そこで、地域の図書館が求められるのである。

当該地域の資料を収集し、それ以外の文献が揃い、データベースやウェブサイトにもアクセスできる環境を持っている図書館でウィキペディアタウンを開催するのは理想的と言える。図書館が会場にならなくても、関連文献をイベント会場に届けて記事執筆のためのサポートをすることは十分に可能である。文献を準備し、調べ方や図書館の使い方のレクチャーを行う図書館員もまた、ウィキペディアタウンを支える重要な存在である⁸⁾。

3. ウィキペディアタウン東山

3. 1. 概要

平成28年度後期(9月~1月)の図書館総合演習の中で、情報技術を駆使したアクティブ・ラーニングを実施した。同科目は図書館実習を希望する学生は必修であるため、即戦力のある司書養成の実践に最も適している。受講生は9名であった。

本実践では、Wikipediaによる編集にOpenStreetMap(OSM)⁹⁾による地図編集を組み合わせ「ウィキペディアタウン東山」プロジェクトと称し、学生および一般参加者とともに京都市東山区の地域情報をウェブ上で正確に発信することを試みた。スケジュールは次のようになった。

9~11月にエリアの選定(六波羅)、六波羅エリアが登場する文学作品の読了¹⁰⁾、六波羅エリアに関する情報収集、外部講師による

事前レクチャー（2回）を開催。プロジェクトのメインとなる「東山ウィキペディアタウン&マッピングパーティ」（共催：オープンデータ京都実践会）を12月10日に東山区役所で開催した。学外からの参加も呼びかけ、講師によるレクチャー、まち歩き、WikipediaとOpenStreetMapの編集を1日かけて行った。1月に再度外部講師を招いて事後レクチャーを受け、学生たちと編集内容のふり返しをしてプロジェクトを終了させた。

3. 2. アクティブ・ラーニングの要素

前年度同様、学生の主体的な学びを引き出すアクティブ・ラーニングとなるように、情報リテラシーの基本ステップ（収集・整理・編集・発信）を組み込んでいる。プロジェクトテーマとなる編集対象エリアの選定には、前年度アクティブ・ラーニングの成果物である『本から始める東山 京女生×地域×観光』を参照し、継続性と関連性を持ったプロジェクトとなるようにした。同冊子が案内する八坂、六波羅、清水の3つのエリアから学生たちは六波羅エリアに注目した。観光スポットの多い八坂や清水周辺の情報は既にウェブ上で多く発信されているが、地元のお店や小さな路地が多い六波羅界隈の情報はまだ少ないことに気づいたからである。よりローカルな情報を収集・整理・編集・発信することを試みる「ウィキペディアタウン東山」プロジェクトに適したエリア選定となった。

六波羅エリアに関連する歴史や文化財について文献やウェブで事前に情報収集し、最新のまちの情報は教室ではなく、地域に出て歩きながら確かめた。テキストと画像（Wikipedia）、地図（OpenStreetMap）など、複数の情報メ

ディアを組み合わせるウェブ上で編集・発信していく中で、学生たちは自ずと情報リテラシーを身につける。前年度と異なり、今回は技術の習得にも力を入れた情報リテラシーであるため、WikipediaおよびOpenStreetMapの専門家を外部から招き、事前のレクチャーおよび編集作業のサポートを依頼した。Wikipedia編集に役立つ文献のサポートは地元の京都市東山図書館に依頼した。その他、ウィキペディアタウンについてのレクチャー（事前学習）を京都府立図書館に依頼している。このように、学外の機関と連携した学習環境作りも本プロジェクトにおけるアクティブ・ラーニングの特徴である。

3. 3. Wikipedia × OpenStreetMap

「図書館が地域情報を編集する」とは具体的に何を指すのか。対象が「何であるか」を文字情報で正確に説明することだけが編集作業ではない。これに加えて、その対象が「どこにあるか」という正確な地理情報も紐づけておかななくては地域情報を編集するとは言えない。ウィキペディアタウンというプロジェクトにWikipediaとOpenStreetMapの両方の編集を盛り込んだ理由はここにある。

Wikipediaには「5本の柱」と呼ばれている基本原則¹¹⁾があり、2つ目の「ウィキペディアは中立な観点に基づきます。」は、可能な限り検証可能で信頼できる出典を明記することを鉄則としている。出典に使えるような文献が多数流通している項目の記事編集であれば、関連文献を個人で探したり入手したりすることが可能であろう。この場合であっても図書館の文献は役立つに違いないが、よりローカルな項目をWikipediaで新設したり、既存記事を加筆修正したりする場合に図書館

の地域資料が大いに役立つのである。図書館側としてもWikipediaの出典に図書館所蔵の地域資料が掲載されると、OPAC検索とは別のルートから地域資料の存在と関連項目を案内できる可能性が広がる。図書館員自身も自館の地域資料を用いてWikipedia記事を編集していけば、デジタルな地域情報の発信に大きく関わっていくのだという体験が「地域情報を編集する能力」を持った即戦力のある司書養成に繋がると考えている。

一方、誰もが自由に編集できるという点でWikipediaと共通しているOpenStreetMapであるが、一般的な認知度はまだ低い。しかし、図書館にとってアナログな地図は地域資料の代表格であることから、デジタルな地域情報の範疇にデジタルな地図も自ずと含まれていくと言える。また、地域のどこに何があるのかという基本的な地域情報を図書館が把握しておくのは当然であるため、その情報源としてOpenStreetMapの活用が期待される。もし、誰も地図編集をしていない地域であれば、図書館が地域を実際に巡りながらOpenStreetMap上で地域情報を発信していくこともできるであろう。ローカル地図が編集できていれば、Wikipediaのローカル記事とOpenStreetMapの該当する場所に相互リンクをつけて「どこに何があるのか」をウェブ上で網羅できる。

3. 4. ウィキペディアタウン実施前

事前学習の期間に六波羅エリアに関する情報収集をしたところ、デジタル情報が少ない名所やウェブ上の情報が整理されていない名所が浮き彫りになった。例えば、地元の名物「幽霊子育飴」を例に挙げると、飴を販売する店のHP¹²⁾はあるが、それ以外は観光サイトの中で紹介されているページや店を訪れた

客のブログがほとんどであった。これらは主観的なデジタル情報であるため、「幽霊子育飴」に関する客観的な情報は不足している。個人的な主観を挟まず出典に基づいて客観的に記述できるのがWikipediaである。既存のデジタル情報とWikipediaの記事を結びつけて地域情報を整理・編集・発信していくのがウィキペディアタウンなのである。編集作業では、Wikipediaに「幽霊子育飴」の新規記事を作成する。

六波羅エリアのもう1つの名所である「六道珍皇寺」は、ウェブ上に寺の公式HP¹³⁾とWikipedia記事が既に存在していた。双方を比較すると、Wikipedia記事には寺宝の一部や平成23年に発見された新しい井戸の情報(黄泉がえりの井戸)が抜けている。これらは現地を訪問して事実を確認した上で記録していく。同じく事実の記述としては、六道珍皇寺が登場する文学作品の情報を記事に追加することができる。これは本プロジェクト独自の編集ポイントである。

六波羅の地図情報をOpenStreetMapで確認したところ、建物が描かれていないブロックは見られるものの、役所や寺、通りの名称は描き込まれている。しかし、幽霊子育飴の店をはじめ、松原通りに立ち並ぶ商店の情報は一切なく、小さな路地ごとにつけられた新しい路地の名称¹⁴⁾も反映されていない(図1)。

図1の中で六道珍皇寺はおおよそその場所は確認できるが、どこが入口でどこまでが敷地なのか、境内の配置が何を示しているのか、井戸がどこにあるのかという情報は皆無である(図2)。ローカルな名所の地図を正確に記録していくことが今回のOpenStreetMap編集のポイントである。



図1 実践前の六波羅エリア(2016年12月10日)



図2 六道珍皇寺(2016年12月10日)

4. ウィキペディアタウンの実施と成果

ウィキペディアタウンという名称は取り組み全体を指すと同時に、1回ごとのイベント名として用いられている。本プロジェクトでも公開イベントを企画し、平成28年12月10日に京都市東山区役所を会場に「東山ウィキペディアタウン&マッピングパーティ(六波羅エリア)」を開催した。参加者は、図書館総合演習の受講生9名(うち7名が編集作業に参加)、教員1名、一般9名(講師2名含む)となった。公開イベントではあるが大学の授業の一環であるため、開始冒頭に学生報告の時間を設け、学生から参加者に六波羅エリア

を対象とした背景とまち歩きのポイントを伝えた。その後、Wikipedia編集歴の長い講師よりWikipediaについてのレクチャーを受け、既にレクチャーを受けているOpenStreetMapについては歩きながらサーベイをするやり方を講師と確認した。以下は当日のタイムテーブルである。

- 10:00~10:30 エリアについて(学生発表)
- 10:30~11:20 レクチャー、資料紹介
- 11:20~12:00 昼休憩
- 12:00~14:00 まち歩き(六波羅)
- 14:00~16:30 編集作業(Wikipedia、OSM)
- 16:30~17:00 成果発表

4. 1. 地域情報の収集(まち歩き)

昼休憩を挟み、午後からは今回の編集対象エリアである六波羅を2時間程歩いて地域情報を収集した。東山区役所から松原通に出てOpenStreetMap編集のためのサーベイを行い、「みなとや幽霊子育て飴本舗」と六道珍皇寺に立ち寄って見学をし、店主と住職からそれぞれの歴史や名物、名所などの話をうかがった。

OpenStreetMapで編集できるものには、領域(エリア)、線(ウェイ)、点(ノード)の3種類がある。領域では建物や池、公園、庭園、駐車場、森などが描け、線では道路や川、壁、フェンスが描ける。点で描けるものは非常に多く、お店や鳥居、石碑、お地蔵さん、自販機、トイレなどがその一例である。ただし、まち歩きをしながら同時に編集をすることは難しいため、現地サーベイでは当該エリアのOpenStreetMapを印刷した紙の地図を用意し、領域・線・点を使って位置を記録していく。お店の名称や石碑に刻まれた内容など

詳細情報は写真で記録する。1つの場所につき、他の場所との位置関係が分かる全体写真1枚と詳細が分かる写真1枚を撮っておくと正確である。

ウィキペディアタウンが広まっている1つには、Wikipedia編集をする前に参加者全員でまち歩きをして楽しみながら地域を知る(学ぶ)時間があるからであろう。今回も2ヶ所を訪問し、「みなとや幽霊子育館本舗」20代店主の段塚きみ子氏と六道珍皇寺の坂井田興道住職から直接レクチャーを受けた。

前者は創業500年の日本一古い飴屋さんと言われる老舗で、慶長4年に妊娠中に亡くなって埋葬された母親が赤ん坊のために毎晩このお店に飴を買いに来て子供の命を繋いだことで命名された「幽霊子育館」が売られている。店内では『六道の辻をあるく』(加納進編著、2016)という小冊子が販売されており、地元の図書館が所蔵していない文献と出会えることも町に出て地域情報を収集する際の醍醐味である。

後者はお盆の六道まいりの時期に賑わうお寺で、平安初期の役人で歌人もある小野篁が冥界へ通っていた井戸があることでも有名である。お寺ではOpenStreetMapの現地サーベイを入念に行い、拝観料を払って「冥土通いの井戸」と「黄泉がえりの井戸」の場所を確認した。

六波羅エリアは平安時代の京都三大風葬地の1つとされる鳥辺野に通ずる場所柄、町の名所はやや謎めいていて、伝説的な要素が強い。出典に基づいた記述が原則のWikipedia編集では、現地で聞いた話をそのまま記事にすることはできない。まちに出て入手した情報が文献に記録されているかを確認することが編集作業では必要となってくる。

4. 2. OpenStreetMap編集

まち歩きをしながらの現地調査を終え、東山区役所へ戻った参加者たちはパソコンをWi-Fiに繋げてネットワーク環境を整え、ここから集中して2時間の編集作業に入った。ウィキペディアタウンのイベントでWikipediaとOpenStreetMapの編集を同時に行う類似イベントでは、参加者がどちらか1つを希望して編集を担当することが多いが、本プロジェクトは学生の教育目的も兼ねていることから、編集に携わった7名の学生はOpenStreetMap、Wikipediaの順でデジタル情報の編集を両方体験した。短時間に効率よく編集作業を行えたのは、学外からの参加者であるオープンデータ京都実践会のメンバーらが学生とマンツーマンで地図編集の操作方法や記事の執筆手順を指導してくれたおかげである。

ここでは、2時間という限られた時間で行った編集内容(学習成果)と学生たちが初めての作業を振り返ったコメント(気づき)を合わせて整理する。編集作業の順に添い、まずはOpenStreetMapの成果を見ていく。

主に以下の2ヶ所を中心に描き込みをしたが、地図という視覚情報の編集のため、実際の地図画面(図3)を3. 3. で示した実践前の同じエリアの地図画面(図1)と比較して見てほしい。建物情報(グレー)がまばらに描き込まれただけの以前の地図に比べると、町の情報が追加されているのは明白である。OpenStreetMapで編集をすると、GoogleやYahooのような企業が提供する地図情報には掲載されにくい地元の小さな商店や小さな路地の名称まで記録できるのが特徴的である。

さらに、地図上でどこまで編集可能であるかを見る一例として、住職の話を聞きながら現地サーベイをした六道珍皇寺を拡大してみ



図3 実践後の六波羅エリア (2017年3月1日)

ると(図4)、参道や境内の通路、井戸までの道、扉の位置や木々の場所が細かく描いている。実際に編集作業を体験すると、これら1つ1つが地域情報であることに気づかされる。

松原通り

- ・商店(「幽霊子育館本舗」含む)、薬局、教会、レストラン、駐車場、東山区役所の北門から庁舎までの経路と階段、観光案内板、路地の看板(こもれ火通り)

六道珍皇寺

- ・参道、木々、総合受付、迎え鐘、冥界通いの井戸、黄泉がえりの井戸、庭



図4 六道珍皇寺 (2017年3月1日)

編集を振り返って(学生コメント)

- ・現地へ行って実際に見て歩かないと分からない情報をOSM上に書き込んだ。
- ・プロジェクトが始まる前とはまったく違うたくさんの情報が伝わる地図になった。

- ・実際の建物の場所と自分が追加したい情報の場所があるのか不安になった。
- ・PCとスマホアプリの両方を使って自分でも今後上手に活用していける自信がついた。
- ・建物の形を描くのもペイントで絵を描く感覚で楽しくできた。
- ・Wikipediaの編集よりは簡単だった。

4. 3. Wikipedia編集

後半のWikipediaの編集では、あらかじめ編集ターゲットとしていた3ヶ所を分担して編集した。「松原通 (京都市)」「六道珍皇寺」は既存の記事を見直して加筆修正を行い、まち歩きの中で店主から話を聞いた「みなとや幽霊子育館本舗」の「幽霊子育館」はWikipedia内に新規項目を新設し、一から記事を執筆する大掛かりな編集作業となった。編集を振り返った学生コメントに「根拠となる正確な情報を合わせて書くのは難しかった」「書いて良い情報と書かない方が良い情報の選別が難しかった」とあるように、普段見慣れているWikipediaの記事の編集は容易ではないことが伝わる。

Wikipedia編集の際の出典情報を得るために、ウィキペディアタウン開催には地元の図書館による文献サポートが欠かせない。京都市東山区で実践した本プロジェクトでは、京都市東山図書館に資料依頼をし、六波羅エリアに関する文献22点を当日の会場に並べて用意した。このうち六道珍皇寺や小野篁、六波羅に関する18点の文献が今回のWikipedia編集の出典として活用されると予想され、学生たちも執筆したい内容を裏付けるために用意された文献に目を通していった。しかし、編集をした学生の「参考文献を探すところが大変」というコメントにも表れているように、

今回の編集作業の中では、残念ながら出典として用いられた図書館の文献はなかった。最も有効であったのがまち歩きの中で入手した小冊子『六道の辻をあるく』である。Wikipediaの新規記事「幽霊子育館」はこの文献に基づいて学生たちが執筆した。

出典としての登場はなかったが、京都市東山図書館が手がける東山が登場する文学作品リスト「京ひがしやま文学散歩」¹⁵⁾に収載されている小説をWikipediaの記事「六道珍皇寺」で紹介し、地元の名所と文学作品を紐づけた。これは、図書館が手がけた当該地域に関するサービスや企画を館内や図書館HP上で完結するのではなく、ウェブ上の関連情報にも結びつけて情報発信する新しい手法と言える。

Wikipedia編集という文字による執筆が中心となるが、記事内に写真をアップロードすることも編集において重要である。まち歩きをしながら撮った写真はデジタルな地域情報として発信される。その他、Wikipediaの記事内にOpenStreetMapとの相互リンクを貼ることも、点在する地域情報を整理して編集することに繋がる。Wikipedia編集の成果を以下に挙げる。詳細は各記事のURLにアクセスして参照いただきたい。

幽霊子育館 (新規作成)

<https://ja.wikipedia.org/wiki/幽霊子育館>

- ・起源・由来、特徴、販売元、脚注、参考文献、関連項目、外部リンクの項目を追加
- ・各項目の説明文を推敲し、Wikipediaの既存記事「子育て幽霊」とリンクさせた
- ・「幽霊子育館本舗」で売られている館の写真のアップロード
- ・外部リンク「幽霊子育館本舗」「立本寺」

を貼り、情報量を増やした

松原通（京都市）（加筆修正）

<https://ja.wikipedia.org/wiki/松原通>（京都市）

- ・「幽霊子育館本舗みなとや」の外観写真と Wikipedia「幽霊子育館」へのリンクを追加

六道珍皇寺（加筆修正）

<https://ja.wikipedia.org/wiki/六道珍皇寺>

- ・冒頭説明に最新情報を追加（平成23年のお盆頃、隣接民有地（旧境内地）から冥土よりの帰路に使ったと伝わる「黄泉がえりの井戸」も発見される。）
- ・伽藍の項目に「収蔵庫（薬師堂）」「地藏堂」を追加
- ・文化財の項目内に「寺宝」を新規追加（「熊野観心十界曼陀羅（くまのかんじんじつかいまんだら）」と言われる絵軸が伝わっている。）（「冥土通いの井戸」「黄泉がえりの井戸」がある。これらは有名であるため、以下の文学作品にも登場している。『鬼の橋』『ホルモー六景』『からくさ図書館来客簿』）
- ・文学作品に注をつけて書誌情報を追加
- ・OSMの「六道珍皇寺」にリンクを貼り、地図情報を追加

編集を振り返って（学生コメント）

- ・コピペにならないように文章を考えるのが一番苦労した。
- ・改行や引用を意味する記号の意味を理解するのが難しかった。
- ・根拠となる正確な情報を合わせて書くのは難しかった。
- ・参考文献を探すところが大変。
- ・書いて良い情報と書かない方が良い情報の

選別が難しかった。

- ・ Wikipediaのページに地図のボックスが表示されたときは達成感があった。
- ・ 世界中に発信されることや、書き込みをしてもすぐに削除されたらどうしようと考え、普段レポートを書くとき以上に伝える文章を書かないといけないと思い、緊張した。
- ・ なんでもかんでも撮影して追加するのではなく、場合によっては許可を取りながら作業を進めていく必要がある（六道珍皇寺の井戸は住職からのお願いでネットへのアップロードを禁止された）。

5. 「ウィキペディアタウン東山」がもたらす教育効果

5. 1. 情報を編集・発信することへの責任感
「ウィキペディアタウン東山」を実践する以前の学生たちは、Wikipediaの閲覧は日常的に行っていても編集をしたことはなく、二次利用が可能なOpenStreetMapの存在も知らなかった。本プロジェクトで設計した「情報技術を駆使したアクティブ・ラーニング」によって、学生たちは Wikipediaの文章1つ、OpenStreetMapの建物情報1つをウェブ上で発信するためにどのような準備をし、正確な情報を責任持って発信するには何に注意すべきかという「情報の成り立ち」そのものを体験した。

地域を知り、正しく発信する学びのスタイル

- ・ 地域に密着しながら情報発信について学べる機会はなかなかない。
- ・ Wikipediaは情報の収集・編集・発信がすべて体験でき、情報リテラシーを伸ばすのにもってこい。

- ・今回は大学周辺が中心だったが、プロジェクトの題材は地域にまだある。
- ・京都の良いところや観光地について改めて考える機会に繋がる。
- ・プロジェクトで私たちがしたことは、情報を集め、整理し、発信することである。これはまさしく情報リテラシーと呼ばれる能力の一部だ。

文献に限らず直接地域に出て地域の情報を集めて整理することは本来の図書館員の役割であり、ウェブを介して世界中に公開されるデータベースに積極的に加わり、地域の情報を正確に責任をもって編集するスキルは現代の情報化社会において必要不可欠なリテラシーの1つである。WikipediaやOpenStreetMapという世界標準の編集ツールを使って自分たちの手を動かしながら情報を発信したことは、すなわちウェブ上で「世界デビュー」を果たしたことになる。学生たちのコメントからも自ら情報発信した充実感や達成感が伝わる。情報の伝達範囲が限られている通常のレポートやゼミ発表と異なり、編集されたデジタル情報は不特定多数に向けて即座に公開されていくため、学生にとっては発信者としての責任を強く実感する学習機会となった。

「世界デビュー」を体験した学生

- ・最初は実感が湧かなかったが、パソコンやスマホに反映されたのを見て嬉しかった。
- ・世界に向けて情報発信することになるため緊張したが、やりがいも感じた。
- ・情報の正確さに気をつけ、責任を持って編集する体験ができた。
- ・まさか自分がWikipediaを編集できるとは思っていなかった。

5. 2. 学習成果のふり返しと再編集

前年度のアクティブ・ラーニング実践では、学習成果を冊子にまとめて発信するという手法を採用した。図書館に寄贈する地域資料となることを目指して制作した冊子であったが、一度完成してしまうとそれを容易に編集し直すことが難しいのが印刷物の限界である。その点、WikipediaやOpenStreetMapのように誰もが編集できるウェブのツールを用いると、デジタル情報の形で発信した学習成果は広く公開されることとなり、それを見た別の人の手によって修正・加筆されていく。

本プロジェクトでウィキペディアタウンを開催した直後にウェブ上で大きな変化が見られたのはWikipediaの「幽霊子育館」である。前日まではウェブで「幽霊子育館」を検索してもWikipediaの記事は全くヒットしなかったが、学生たちがWikipediaに投稿した新規記事のおかげで、今では館屋のHPよりもWikipediaの「幽霊子育館」の記事が最初にヒットする。地元の名所をWikipediaで編集するメリットはここにある。どんなに小さくてローカルな地域情報でも、Wikipediaに記事があれば検索の上位にヒットするため、ウェブ上で情報に埋もれることはない。

学習プロセスや学習成果をふり返ることもアクティブ・ラーニングの重要な要素である。本プロジェクトの場合、WikipediaとOpenStreetMapどちらにも学生たちが編集した記録が残されていく。それらはいつでも誰でも閲覧することができるため、公開中の情報が誤っていたり、情報が古くなっていたりすると、情報はどんどん再編集されていく。例えば、Wikipediaの「幽霊子育館」の変更履歴(図5)を見てみると、ウィキペディアタウンを開催した12月10日に5回に分けて編

- ウン (2018-1-30参照).
- 5) 同上。
- 6) <https://ja.wikipedia.org/wiki/プロジェクト:アウトリーチ/ウィキペディアタウン/アーカイブ/2015> (2018-1-30参照)
<https://ja.wikipedia.org/wiki/プロジェクト:アウトリーチ/ウィキペディアタウン/アーカイブ/2016> (2018-1-30参照)
<https://ja.wikipedia.org/wiki/プロジェクト:アウトリーチ/ウィキペディアタウン/アーカイブ/2017> (2018-1-30参照)
- 7) 同上。
- 8) 是住久美子「ライブラリアンによるWikipedia Townへの支援」『カレントアウェアネス』No. 324、2015、pp. 2-4.
- 9) OpenStreetMap (通称OSM) は、誰もが自由に利用でき、編集できる世界地図を作ろうという目的のもと、2004年にSteve Coast氏によって始まった共同作業プロジェクトである。日本での取り組みが始まったのは2007年3月頃。地図を編集するボランティアは「マッパー」と呼ばれ、ウィキペディアタウンと同じく編集イベント(マッピングパーティ)を開催している。未完成な地図であるため空白地帯が多いが、「<https://www.openstreetmap.org>」より現在の状況を見ることができる。
- 10) 受講生9名が読了した文学作品と東山が登場する場所を挙げておく。『鬼の橋』伊藤遊(五条橋・六道の辻)、『ホルモー六景』万城目学(八坂神社・六道珍皇寺)、『からくさ図書館来客簿』仲町六絵(六道珍皇寺・祇園など)、『冥界伝説たかむらの井戸』たつみや章(六道珍皇寺・簗の井戸)、『有頂天家族』森見登美彦(六道珍皇寺)、『空也上人がいた』山田太一(六道の辻・六波羅蜜寺など)、『京都東山京焼の殺人挽歌』柏木圭一郎(五条坂・清水坂・六波羅周辺)、『祇園いそっぶ京都・祇園のキツネとタヌキ』花瀬七穂子(祇園・安井金比羅宮・辰巳大明神)
- 11) 「1. ウィキペディアは百科事典です。」「2. ウィキペディアは中立な観点に基づきます。」「3. ウィキペディアの利用はフリーで、だれでも編集が可能です。」「4. ウィキペディアには行動規範があります。」「5. 上の4つの原則のほかにウィキペディアには確固としたルールはありません。」
Wikipedia「Wikipedia: 五本の柱」<https://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia:五本の柱> (2018-1-30参照).
- 12) 『みなとや幽霊子育館本舗公式ホームページ』
<http://kosodateame.com> (2018-1-30参照).
- 13) 『大椿山 六道珍皇寺 公式サイト』
<http://www.rokudou.jp> (2018-1-30参照).
- 14) 六原学区(六波羅エリア)では、防災対策の一環で平成27年度に「みんなでつけよう ろじのあいしょう」プロジェクトに取り組み、路地銘板を作って学区内の100ヶ所に設置した。
六原自治連合会「六原へようこそ! 銘板」
http://www.rokuhara.org/about/bousai_meiban.html (2018-1-30参照).
- 15) 京都市東山図書館「京ひがしやま文学散歩 2016年版」(一般書137作品、児童書11作品)